

〔源平盛衰記四十四〕神鏡神璽都入并三種寶劔事

景行天皇四十年夏六月ニ、東夷背朝家、關ヨリ東不靜、○中十月朔癸丑、日本武尊道ニ出給フ、戊

午先伊勢太神宮ヲ拜シ給フ、嚴宮倭姬命ヲ以、今蒙天皇之命、赴東征誅諸叛者、コ、ニ倭姬命、天

叢雲劔ヲ取テ、日本武尊ニ奉授云、慎テ無懈事、汝東征センニ危カラン時、以此劔防テ、可得助事、

又錦袋ヲ披テ異賊ヲ平ケヨトテ、叢雲劔ニ錦袋ヲ被付タリ、日本武尊是ヲ給テ、東向駿河國淨

島原、著給、其所凶徒等、尊欺ンガ爲ニ、此野ニハ麋多シ、狩シテ遊給ヘト申ス、尊野ニ出テ、枯野萩

搔分々々狩シ給ヘバ、凶徒枯野ニ火ヲ放テ、尊ヲ燒殺サントス、野火四方ヨリ燃來テ、尊難遁カ

リケレバ、佩給ヘル叢雲劔ヲ披テ打振給ヘバ、刃ニ向草一里マデコソ切タリケレ、爰ニテ野火

ハ止ヌ、又其後劔ニ付タル錦袋ヲ披見ルニ、燧アリ、尊自石ノカドヲ取テ火ヲ打出、是ヨリ野ニ

付タレバ、風忽ニ起テ、猛火夷賊ニ吹覆、凶徒悉ニ燒亡ヌ、偕コソ其所ヲバ燒詰ノ里トハ申ナレ

バ、此ヨリシテ天叢雲劔ヲバ草薙劔ト名タリ、彼燧ト申ハ、天照太神、百王ノ末ノ帝マデ、我御貌

ヲ見奉ラントテ、自御鏡ニ移サセ給ケルニ、初ノ鑄損ノ鏡ハ、紀伊國日前宮御座、第二度御鏡ヲ

取上御覽ジケルニ、取弛メ打落シ、三ニ破タルヲ、燧ニナシ給ヘリ、彼燧ヲ錦袋ニ入劔ニ被付タ

リケル也、今ノ世マデニ、人腰刀ニ錦ノ赤皮ヲ下テ、燧袋ト云事ハ此故也、

〔常陸國風土記久慈郡〕郡西○中里靜織里、略北有○中小水、丹石交雜、色似瑠碧、火口鑽尤好、故以號玉川、

〔紀貫之集八〕おなじ少將○藤原師氏のもとへ行人に、火うちの調度をてうじて、それにたきものを、く

はへてやるによめる、
をりくゝに打てたく火の煙あらば心ざす香を忍べとぞ思ふ

〔後撰和歌集十九離別羈旅〕とをきくにへまかりけるともだちに、火うちにそへてつかはしける、

よみ人しらす